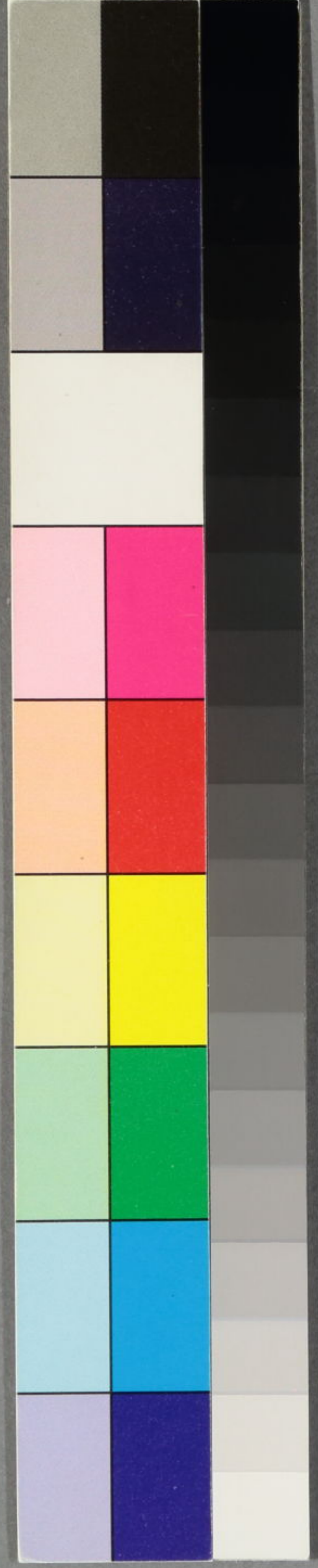




源頼朝

源頼朝

源頼朝

源頼朝

中川



源頼朝

義貞頼朝

秀卿頼朝

國姓頼朝

金子頼朝

野木頼朝

左馬頼朝

岡田頼朝

源頼朝

坂田金時

義純

細川頼春

秋田

和泉

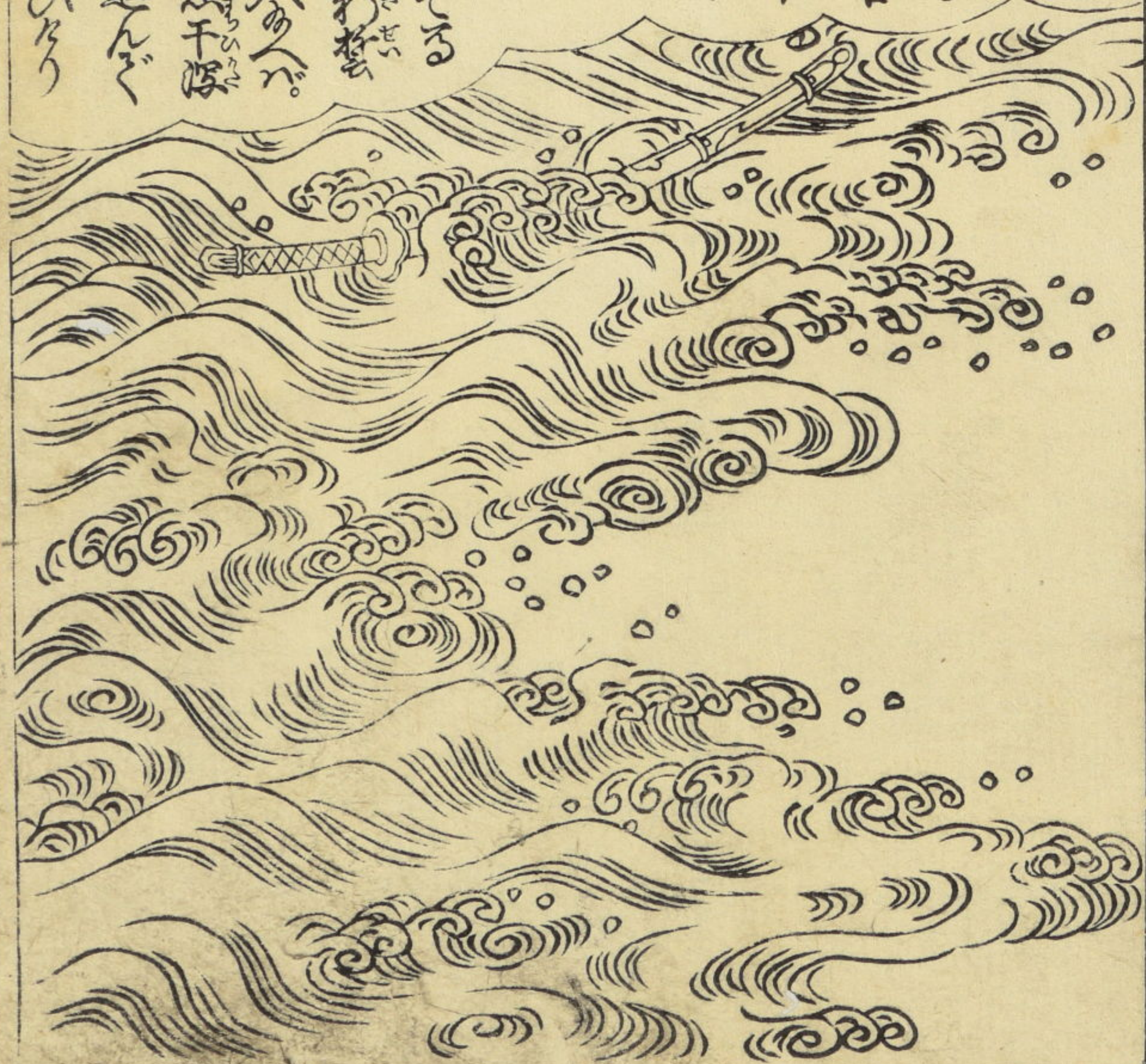
仇生

頼政

新田義貞
稲村崎
戦



鎌倉平る時
及んと官軍極よる
の切通へ押寄せ要害
堅固ぬけとて攻めんと
て居りしが義貞も他
勢とていふに
ふさぐぬ稲村崎の
波瀬とていふべき
たてゐる義貞やとて
よりちり海上へ向ひて
し。ちり振浦中へ投入
不思ふやと余りなる
とみへぬ勢勇に進ん
城へ攻入終ふとてい
たり



收童丸
初雅客

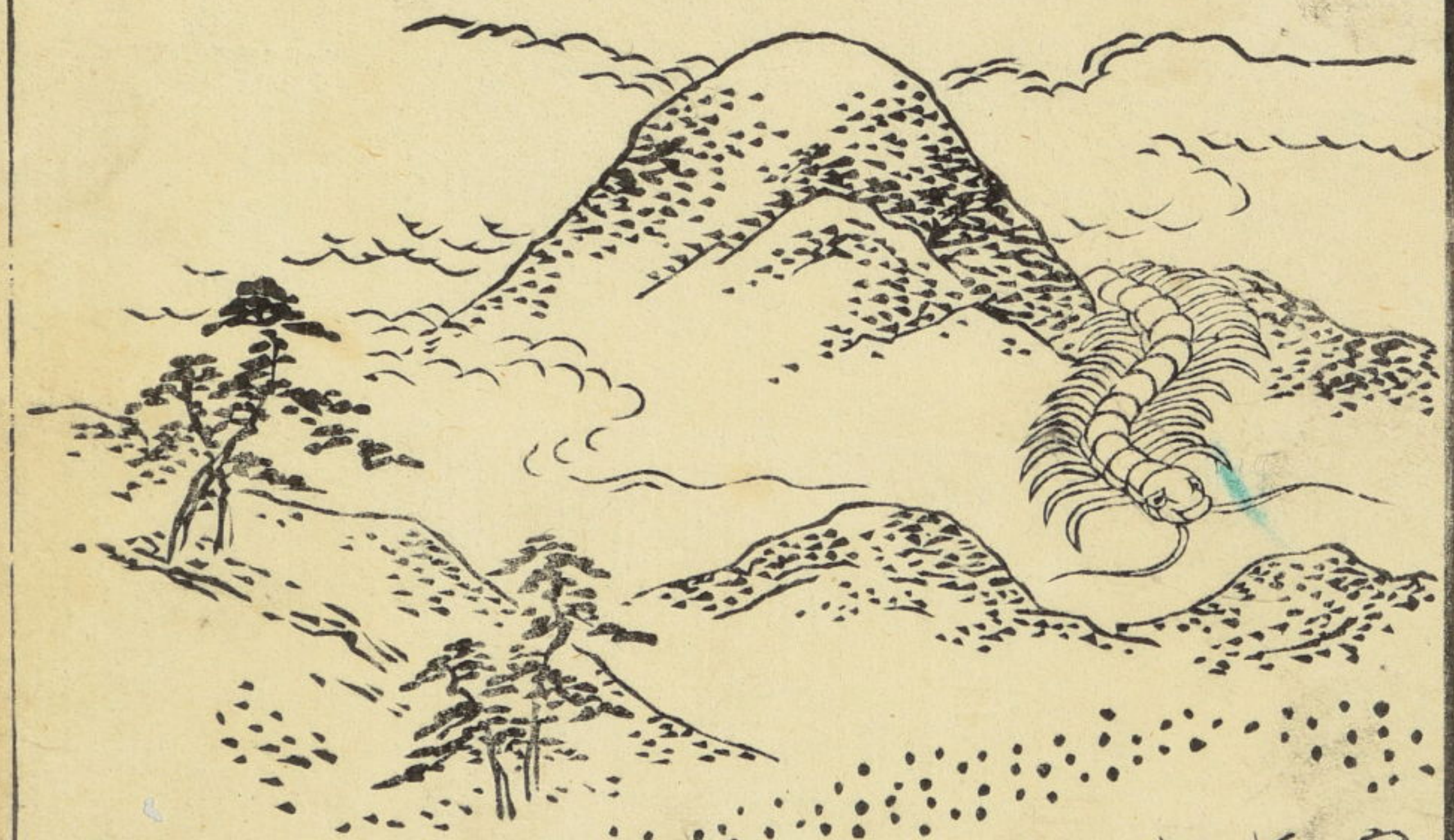


收童丸は山姥が子にて。
 初雅の時より勇力な
 事あり。成長の源
 頼光召く家臣あり。
 坂田金時こそあり。はま
 のきんとすなり。
 山姥が子といふは
 どしとむ。むしとむ
 いひはて模写し
 うふより。あふあー
 あふふと



依藤太秀卿
 蜈蚣退治

そのうきうきあはれ
 往昔に初勢田の橋
 小大蛇とてさうて往
 来の人をさしきり止
 めけるあつてと蛇と
 て居りてふか女
 の姿と化してあつ
 にむひひたりや
 我は歌とる者
 退治し終らん



やし秀のうけ
 て終ふあま
 射殺しぬ
 三よふあつ
 蜈蚣ありと
 其蛇ハ新
 少てそ恩
 あめぐの
 孫と秀の
 小あつ
 あん

三浦久義純
上総久廣常
近衛院の所率の順世の
系に多経の流多出てわき
しをた民乃れ大なるあしど
帝よりあふふ命とて是
と証あつるえ来ぬ人務
射のまふかれはかと世の
系はるぬぐすても証



けさわきも
狂歌きても。
のこも射殺
しられぬ民
安堵のまふ
とかしける
とらん



関姓爺

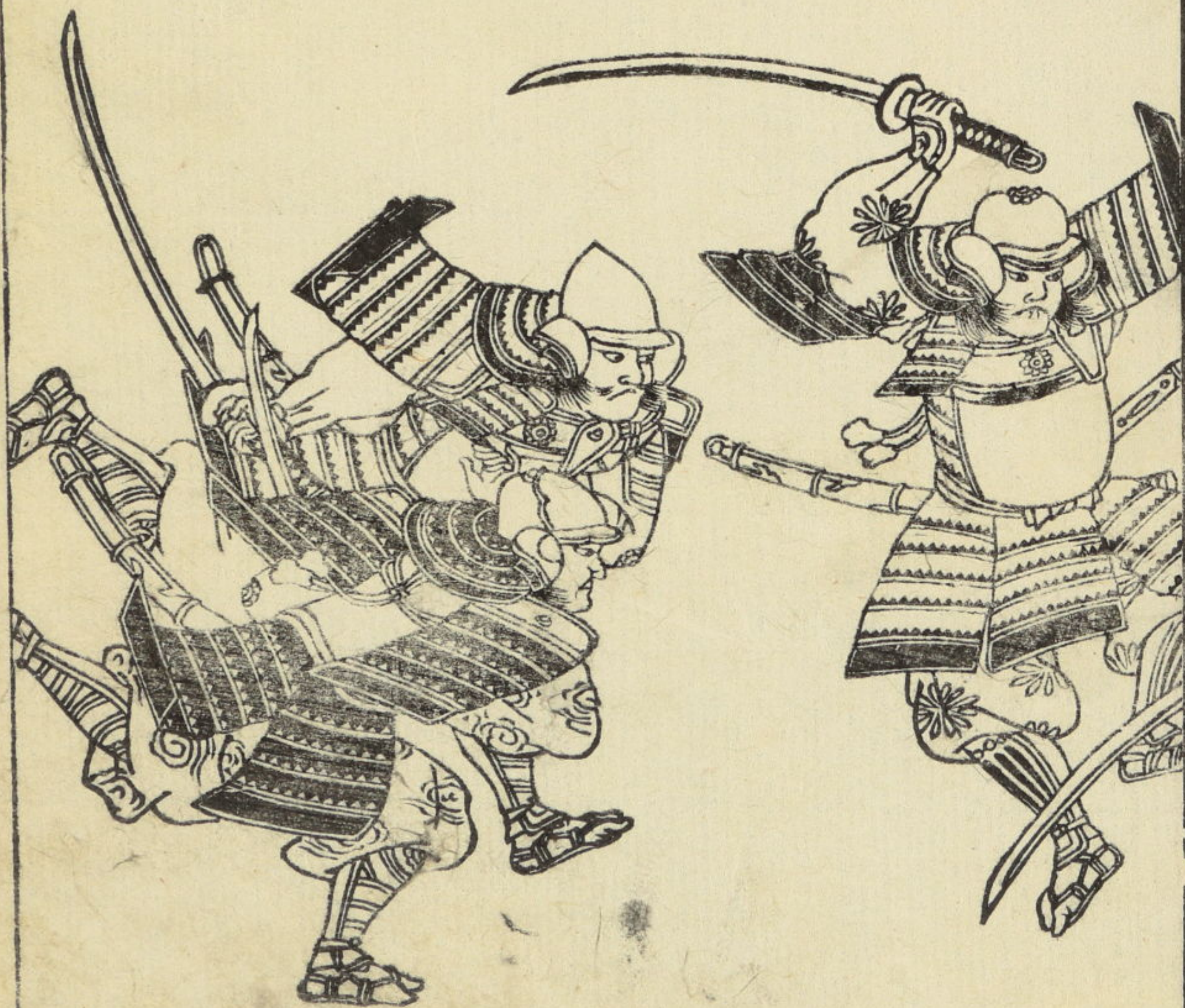
父の老一貫とて大助の長兄あり
 うども。関の乱とて。目を對馬の平戸
 に渡りて。佐々木。門。子。狐。役。関姓爺
 あまふり。成人。小。あ。う。軍。学。通。じ。
 勇力。無。双。の。者。か。と。い。ふ。父。の。お。借。小。大。助。の
 乱。亡。せ。り。事。と。い。ひ。く。思。ひ。大。慶。が
 後。王。頼。朝。と。大。小。戦。ひ。勲。功。甚。多。し。
 竹林。の。中。に。猛。虎。と。あ。り。我。朝。の
 武。威。と。し。て。大。小。中。國。に。知。れ。し。



細川
頼春



勇将あり素る敵
の赤き力にけり飛
で鞍ふあきり落し
しとちうもまど敵
三騎切てあきる敵
が敵ありひびき
ておきあきりし
くる小敵三人う
とそ難る敵切
らましう敵を
み底ふしう。終ふ
和田和泉守あり
討てしあり



金子十郎家忠

保元の軍に矢を射
 盡し、力を援て切立
 け、散てをく者い
 か。然西八郎見と
 見、教ふ、勸
 を感、推、わ
 ぬ、組とあてま
 して、われ、別、雲の
 ち、同、三、弟、四、弟、殺て
 かけ、出家、忠、は、組、付、ら、と。
 三、弟、と、り、ふ、り、を、三、弟、が、ろ
 の、茶、持、ひ、と、わ、げ、扱、も、を
 して、三、刀、と、て、剣、の、け、三、弟



が、そ、か、き、落、し、立、あ、り。
 ち、る、兄、弟、と、対、ら、う、と
 と、よ、う、と、し、あ、り、と、し
 かり、け、る、と、し、あ、り

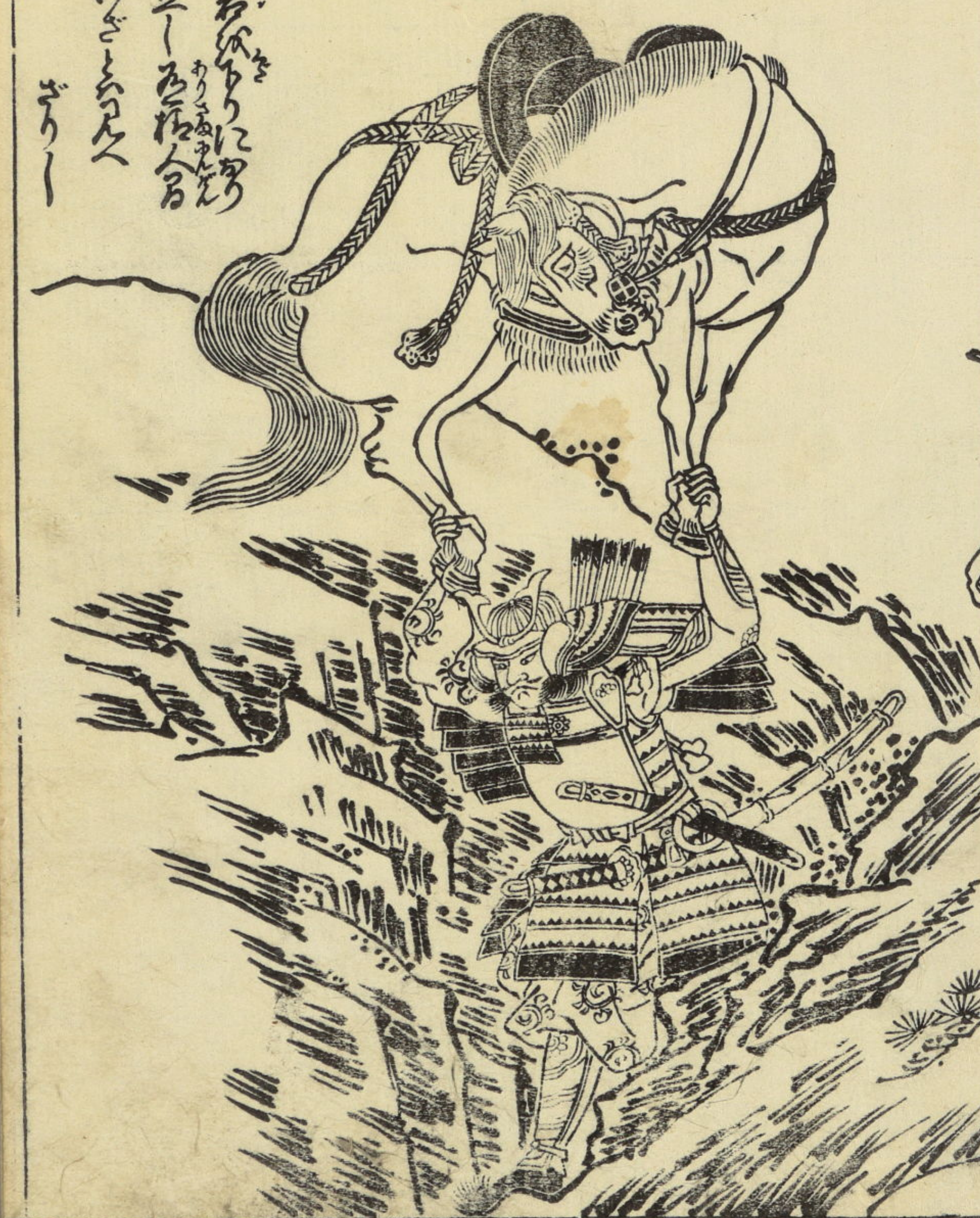


義経ひまを敵と
あつめひつたも
かれんあんのあて
重忠よりかりき
かやうのあつ馬の足
と休めててと四
足とあひふさう上



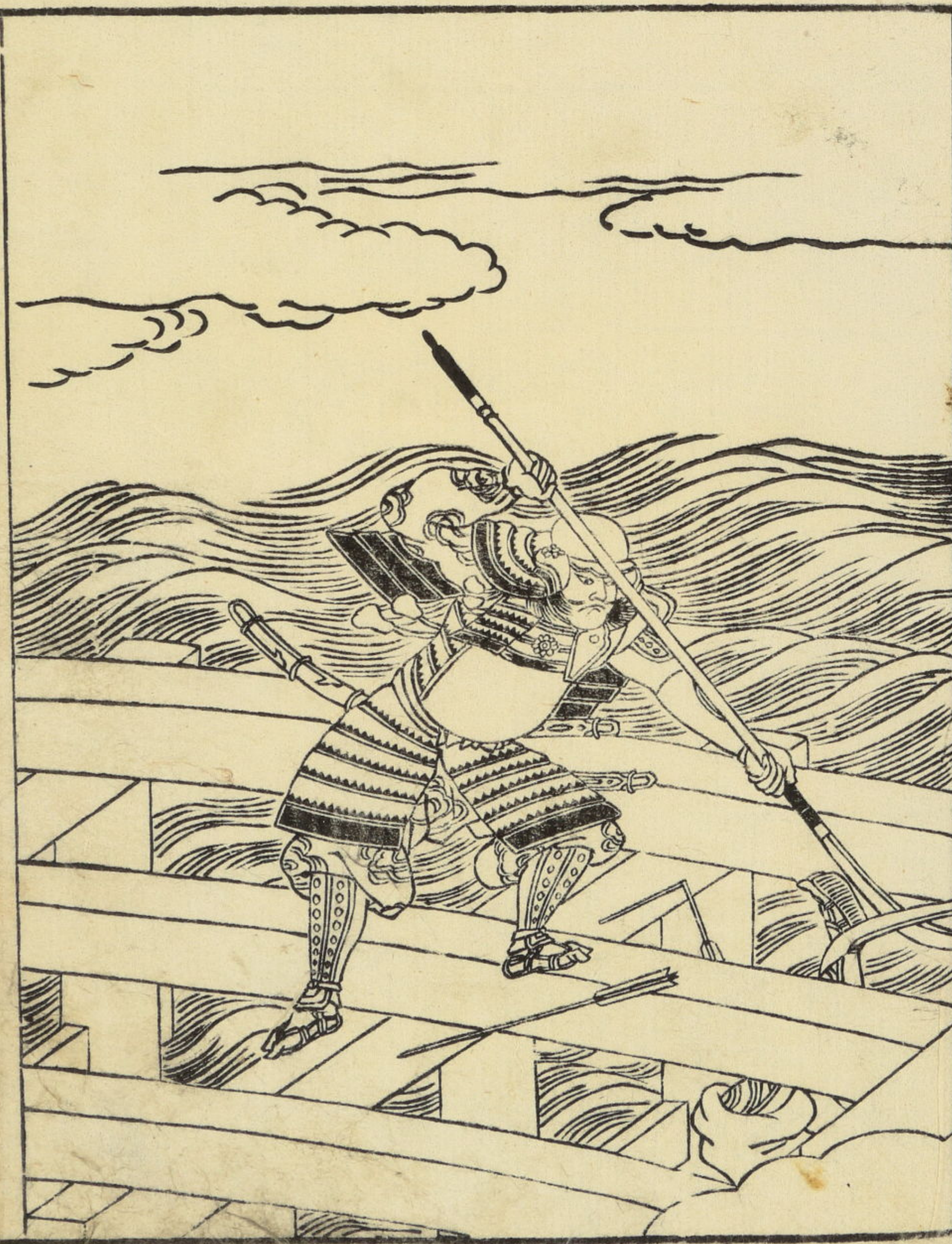
秩父重忠

岩谷よりいかり
あつあつと
あつあつと
いざとつと
ざりー



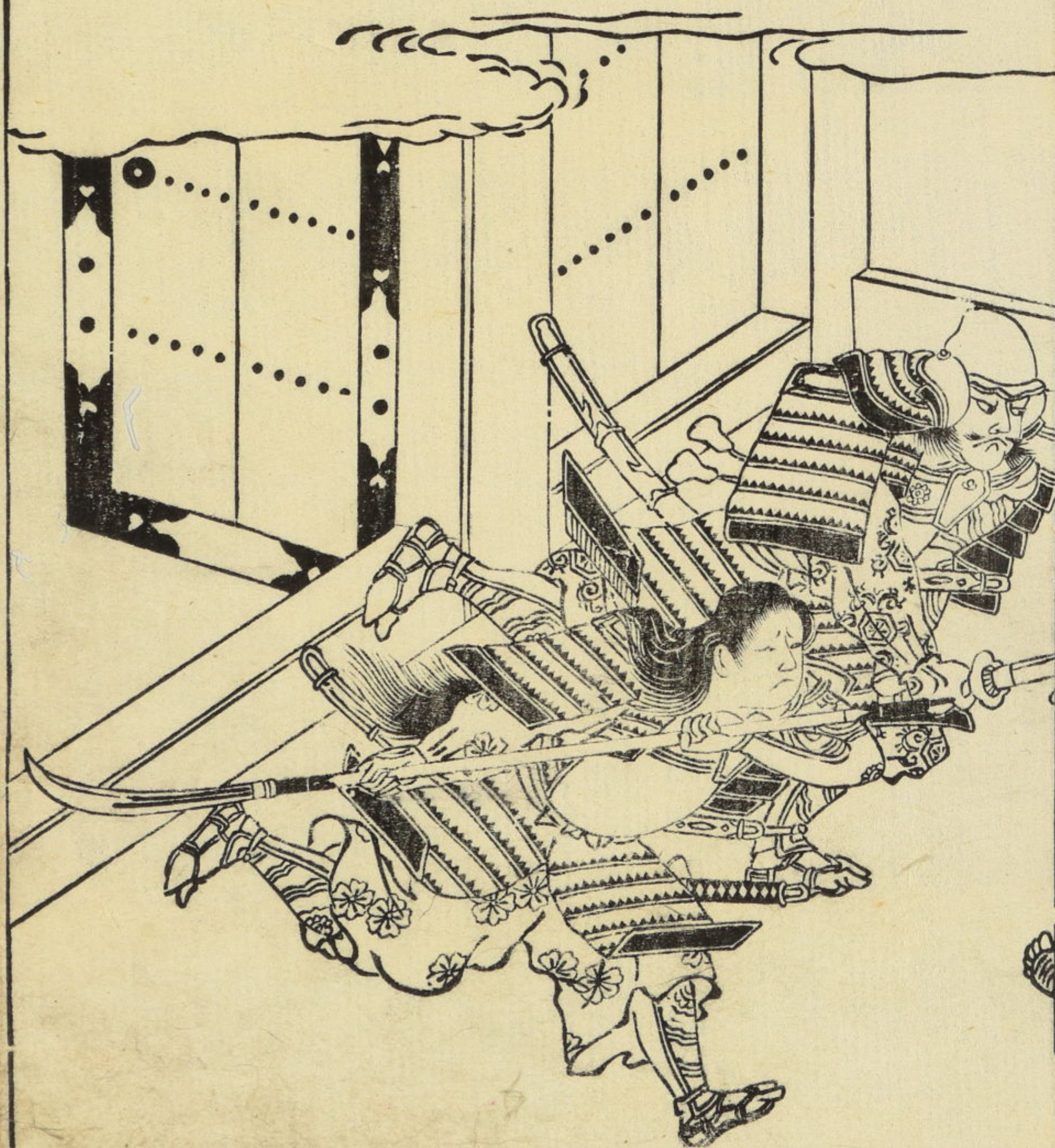
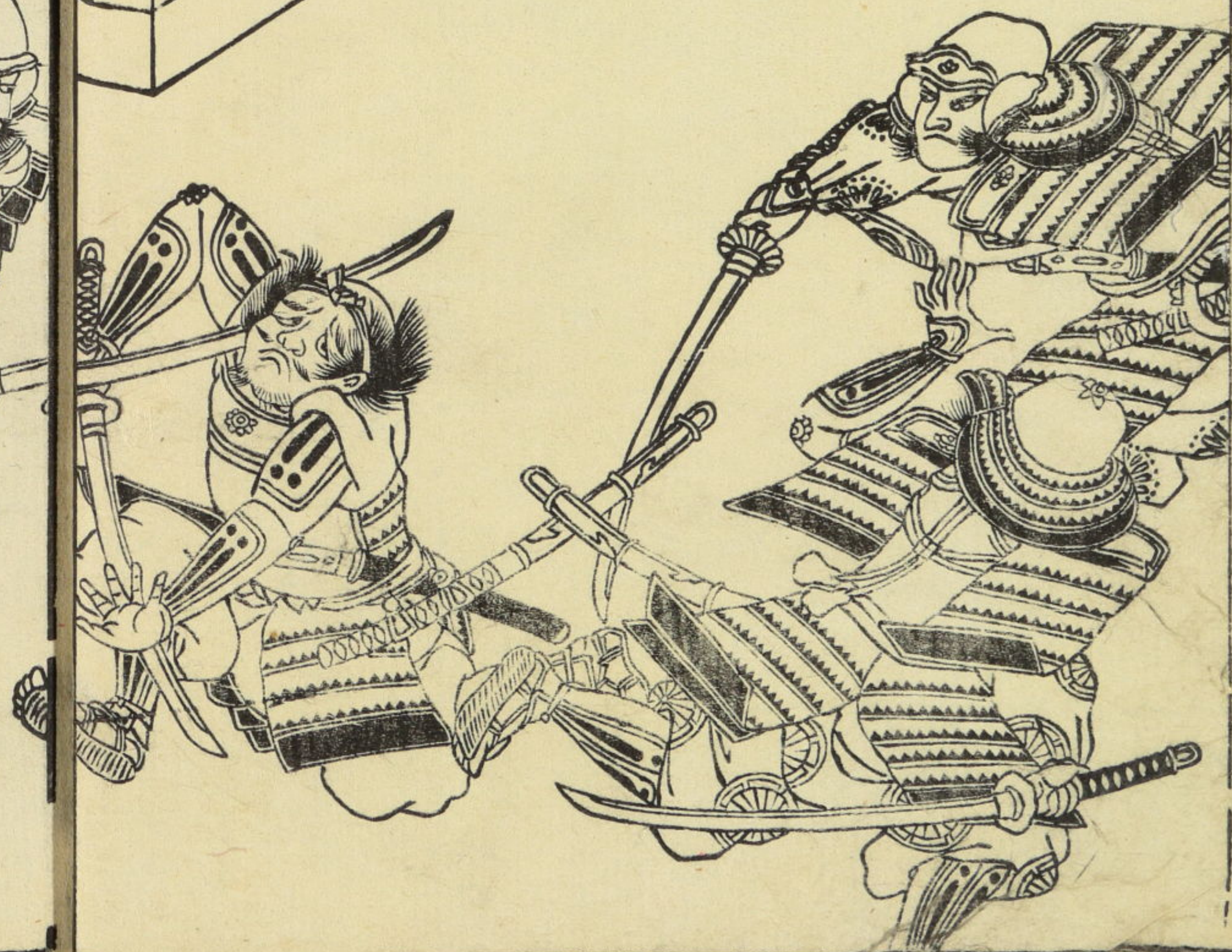
野木入道頼玄

大坂の合戦ふゆぎを
つゝひ大難にいて敵と
あまふ討た敵の射る矢の
面のごくふら死なむなり
切かゝるるあまふは活
川の津ぬきあまふなり
はるるける。さうのとき
松板落て流ふあ中に
落し死をふきあまふなり
ねとたふ長刀は押し
てあふ備へせ。みよこの
陣へあふける。敵ははた
かり勇士なり



和泉三帝忠平

義経のみささぎを
牙軍にひびくは
あて忠平が敵へ押さへ
久世も通るべき令
どし。主将も覚悟
抱り。二人の子をさう殺
て。主将うつくしき
に。敵の教多敷と
る。其後さうして
矢ふけりて



覺明
勇力

宇治の掬も命ひ
けら作本振系
先傳して河公渡
けさ義經の勢い
て我もくつを渡り
宇治の子流し被さ
くさめしと念ふ人
あふ岩間八所二十路



中にくつてあふ
まふ余りの恨れ將
合戦もある人あ
に折れせむ時ぞ
ふ殺多うれあ
あふわくふ
近きなり



風生判官母

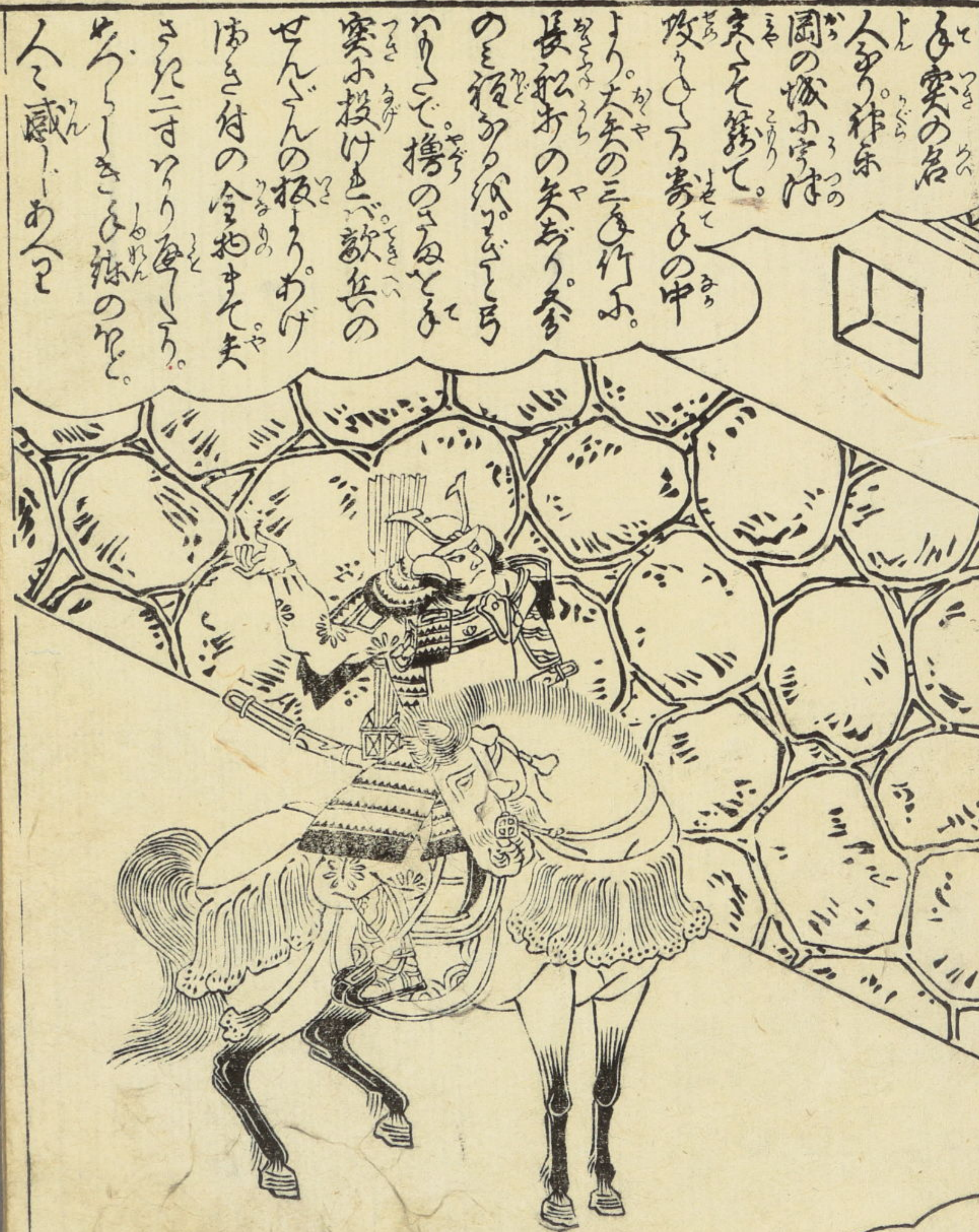
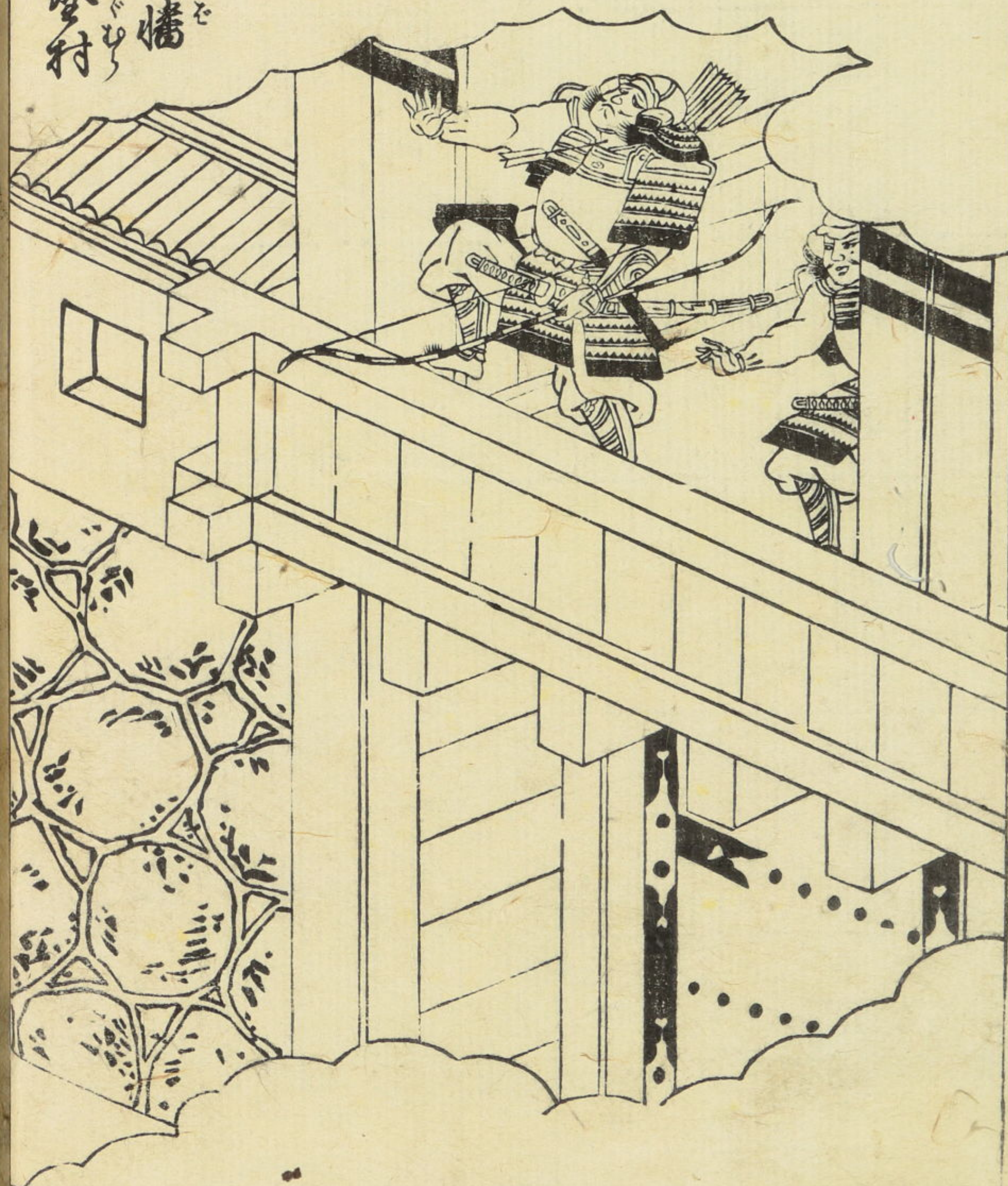
みづすてに級軍
にふびみだ付死
せうも新風
やう義治君と
いふんぬ其月
も甲寅辰事し
内例の婦人皆
獲物具花やふ
出させ酒と
献ぜんそ稚子
出雲りら出
酒宴とか



てりやうく
歌何方跡
来りも係
めぐうし
吉卒とも知
ちて戦んふ
何事うらん
はんやとらま
いふけり女
いふも大ま
いふ



固城
全村



今更の居
 人より律令
 固の城ふすは
 まを築て
 攻めつる家の中
 より大矢の三々竹ふ
 長松木の矢あり。参
 のと宿あり。城のまじり
 ありて携のさぬと
 突お投げと敵兵の
 せんごんの板よりあけ
 隙さ付の金おすて矢
 され二すやりなり。う
 せうしきと城のやど
 人々感あへり

頼政實叙を試
 温明殿ふ異人室叙と歎ぜに
 信頼みと試けりふゆをばり
 て切らりと叙其叙の具を
 事と奏しなれどあふれぬ
 市前ふおそて試るる一と
 勅後ありしふ
 やと叙と援
 中庭にわり
 大石中より
 ニッふ切る
 けるはふ
 ありもの
 ありなる



源頼義父軍法傳
 受を匡房卿ふひ
 とうる中へうをも
 又ふ許容ふりける更
 養一りてふけふ上
 より所作わつて後男
 山のねぬふて美後氏傳
 来八陳の男と院より
 孫子一羽の傳授を秘
 密にわらふて孫子と
 とうく源家の家業を
 えて代ふふ加をわら
 せり



長田義朝はあがり越る
 後田氏を妻貞公討死の
 唐討和歌歌の叙を集取
 下莊子春と流は打殺
 鼻田弥次郎諸軍勢と進
 今井兼平歌の園と切被
 義朝信頼とひらうる

頼朝果玄光尾死と退
 有宿祢鐵的公討通
 宋岳飛數万の兵と討
 及遲子益反殺の
 樋原氏重光梶原と戦
 伊達二席依と本と戦
 源頼朝浮海の義経討

長田
義朝と
たむろ
弒と



源義朝平家と戦ひ
利あつておぼろ
時とつんと長田と
戦ふあひあひせが
長田かゝるも
義朝と戦ふ平氏の
鷹とあひあひせが
早て風呂入る並
に播磨翁七郎と
つゝ三人の力を組
どして戦ふあひ
もの勇も深家の
中よりいひ終ふ
あひあひせが





徳川家光
 尾花出海より我が長岡なるふ
 弑せしむるひくふ光と金丸
 とこの敵の即時に射とるけり。
 悪人どもあ人をとおも遠矢と射
 てをまはせむせんさあくしに
 さけり。敵は後とせんや。
 馬にさうふふ乗て
 引たりや

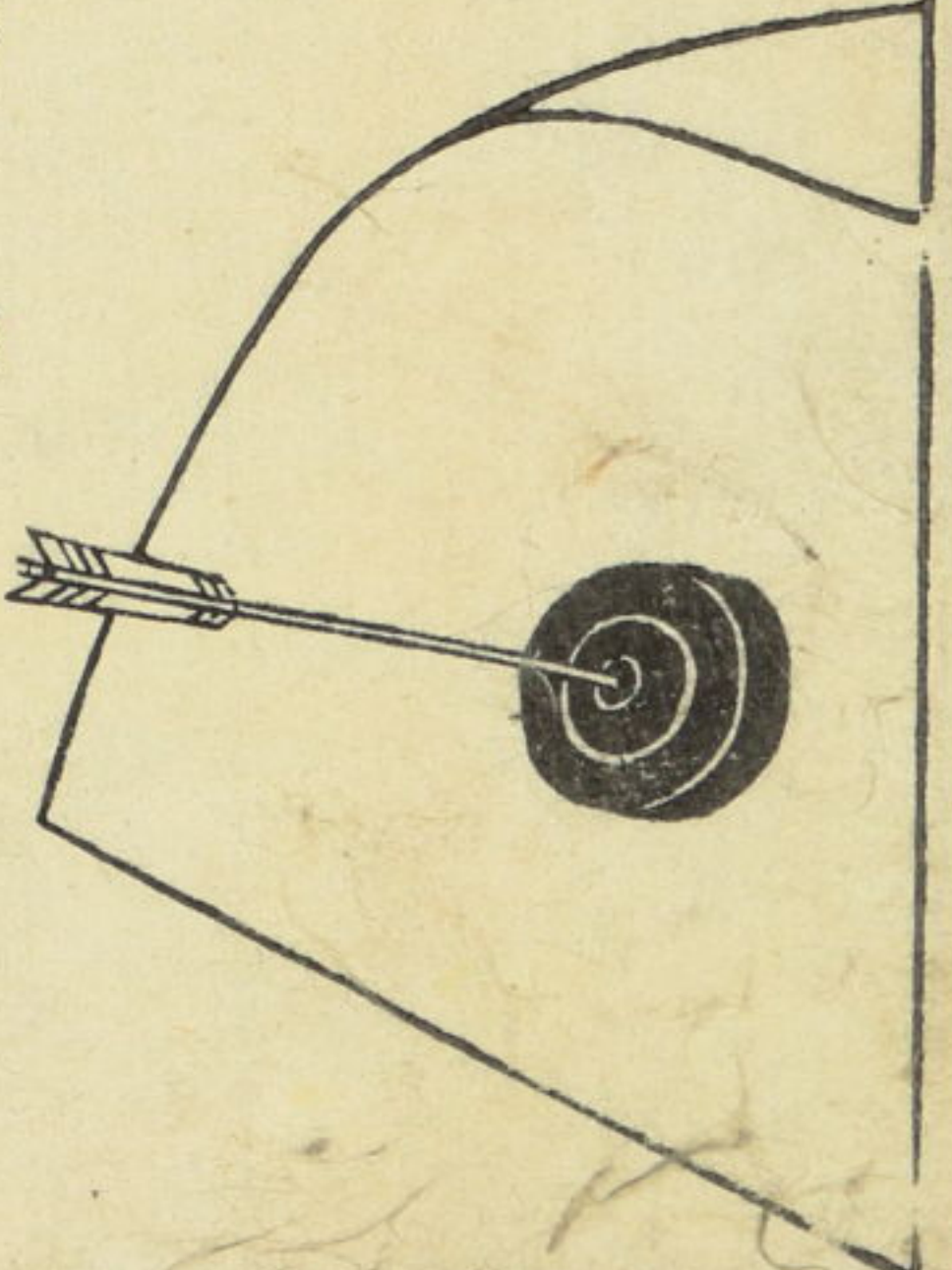
強田正清が毒
 正清は長田なるに主君義朝と
 ともふ討ぎしうまの歌恨
 晴さんと兄弟の
 者どもとうち
 合討死とぞ
 あつりける。
 孤ふ勇と
 貞女ありと。
 人々感
 けりとあん



仁徳天皇の
所宇に異國
より見ゆ
弓勢と鐵
る鐵の的を
なりて見ゆ
あそ射人と
一ふ眉人宿
称といふ人



弓てびぬ射ぎう
勅命ありけるにぞね畏て
弓勢と鐵る異國の使
の眼赤うてなるの
射通しけるは異國の使
大ふ驚きあそきて我
國へゆける



齊知敬

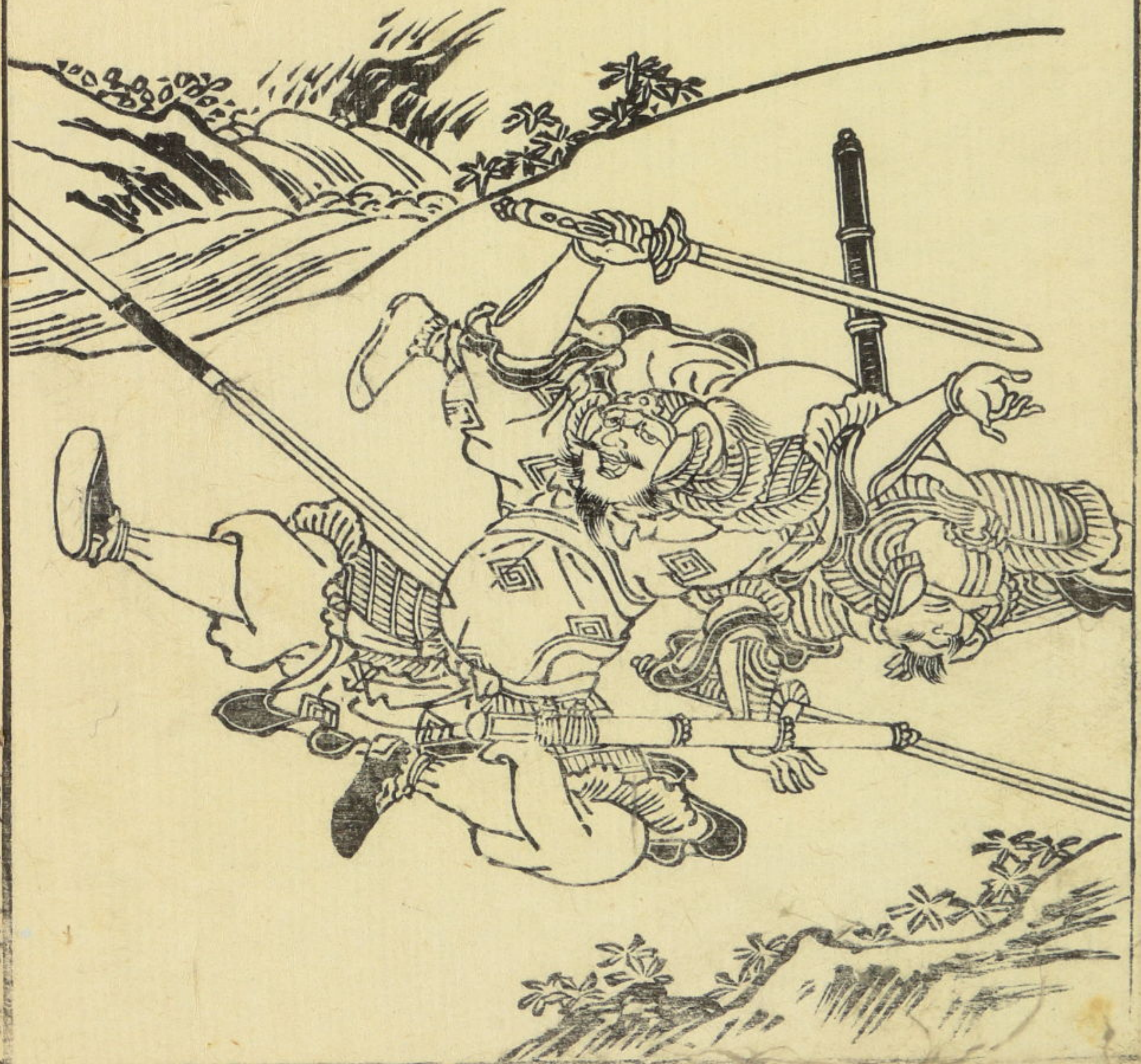
唐の太宗乃時れ
猛良あり軍に臨み
わがしを力ふく
歎のみと棄て奉
とゆへり軍中
大將と討て後小任城王
を養ひてうち殺む
其性極悪なり
帝にさかへり

とあり



岳飛

宋一世の忠臣力
量万人ふくみ敵軍
の妙とて世に名は
得るもあつた秋
八十五騎の兵と
宋と攻めあつた岳飛
終ふまで騎のりの
兵を引いて入
敵を討つた六万騎
あり其時勇と然
りて最後なる

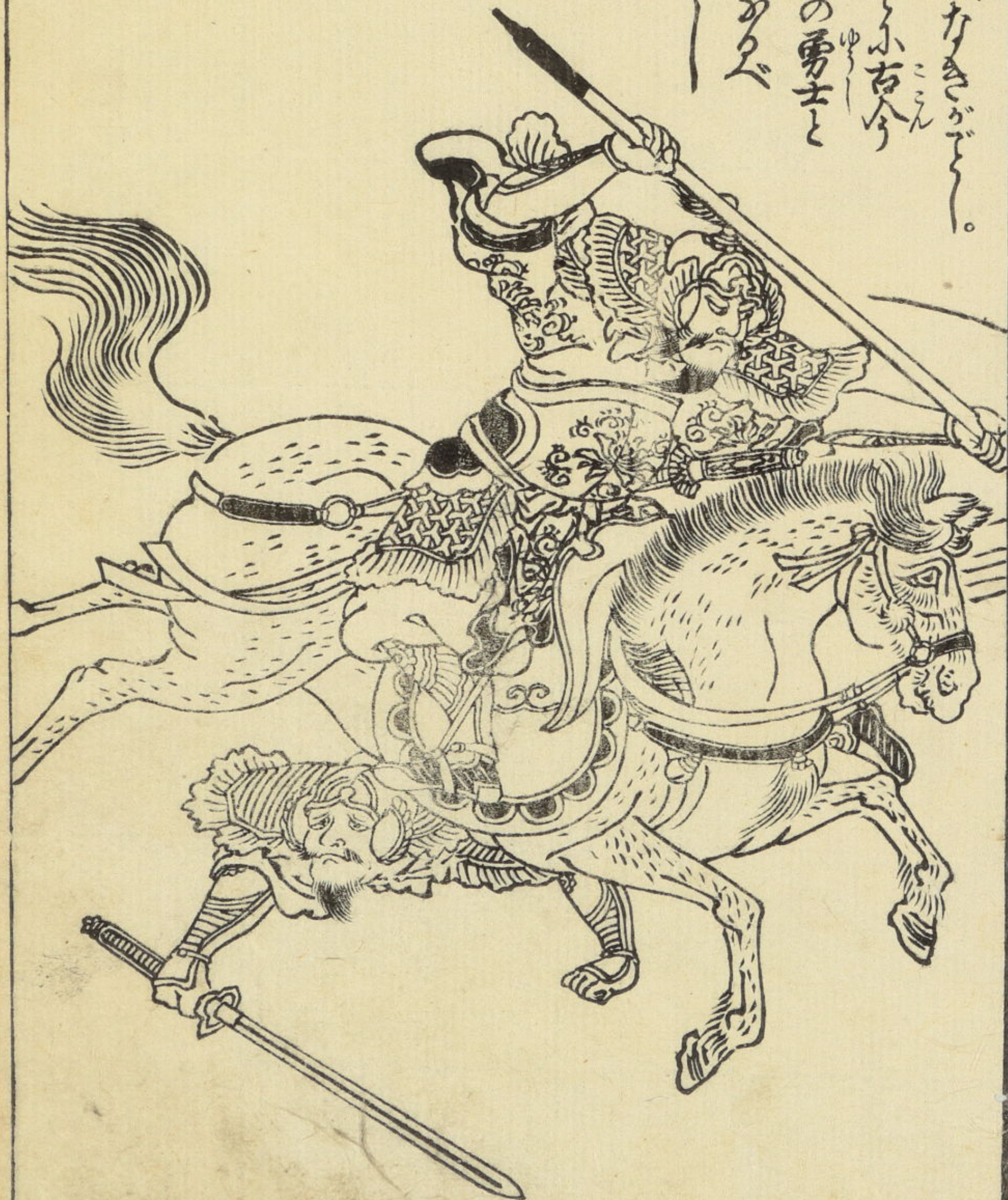


小敵なきがごとし。

すくなくも

吾奴の勇士と

いふなり



下庄

戦國の勇士
 多かり。かゝる
 超えり。わが時
 泰の盟ふも
 ひく途中にあ
 虎いり。狐か
 ちとと初
 あゝそひ



やむとや
 久し。あやうく
 虎と大なる虎と
 殺しぬ。時ふ下庄
 彼虎と泰の盟ふ
 亦殺し。二つの虎と
 ぬらりとや



孟 反
 反 遲



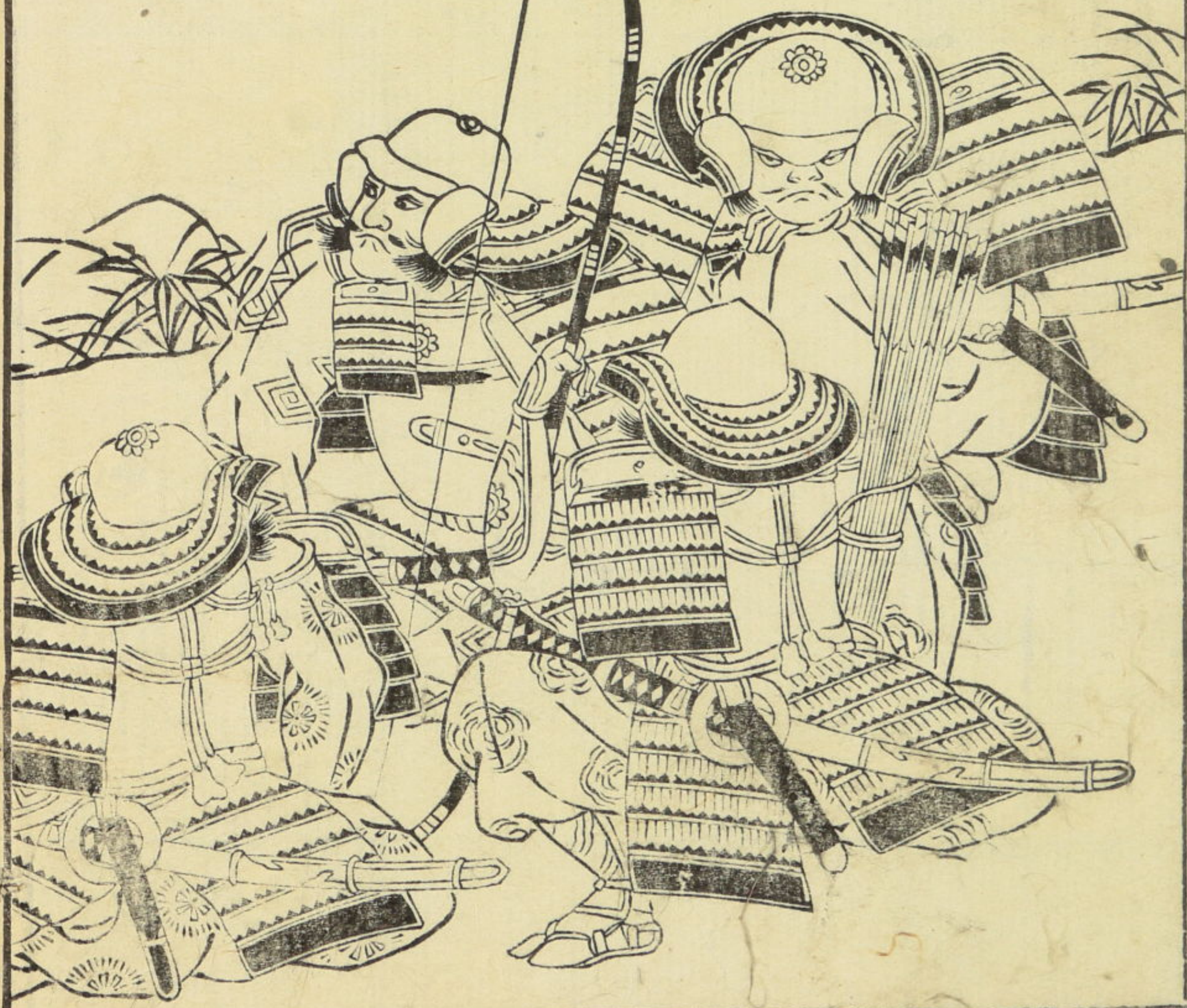
孔子の門人あり。敗軍
 の時殿とて人々その
 勇猛を称じ。時
 其武徳を以て
 我らとてふ
 わる。馬とては
 少。跡ふ
 たり。剛強羞
 其辞讓の心
 うたふとあ



梶田弥次郎

四條繩の合戦。
上戸の者が討
死にけり。降参
首のついでに
正妙正時

よろこびのこころ。
能くもへ降参
ふり一軍を
とめて念ふ
一。えま揃参み
も負つて中



も豪勇の孫郎

降参のついで
さう。安らぬ
そのついで
付とんと
ついでにか
たちわが軍
ふもいふ
けりかな

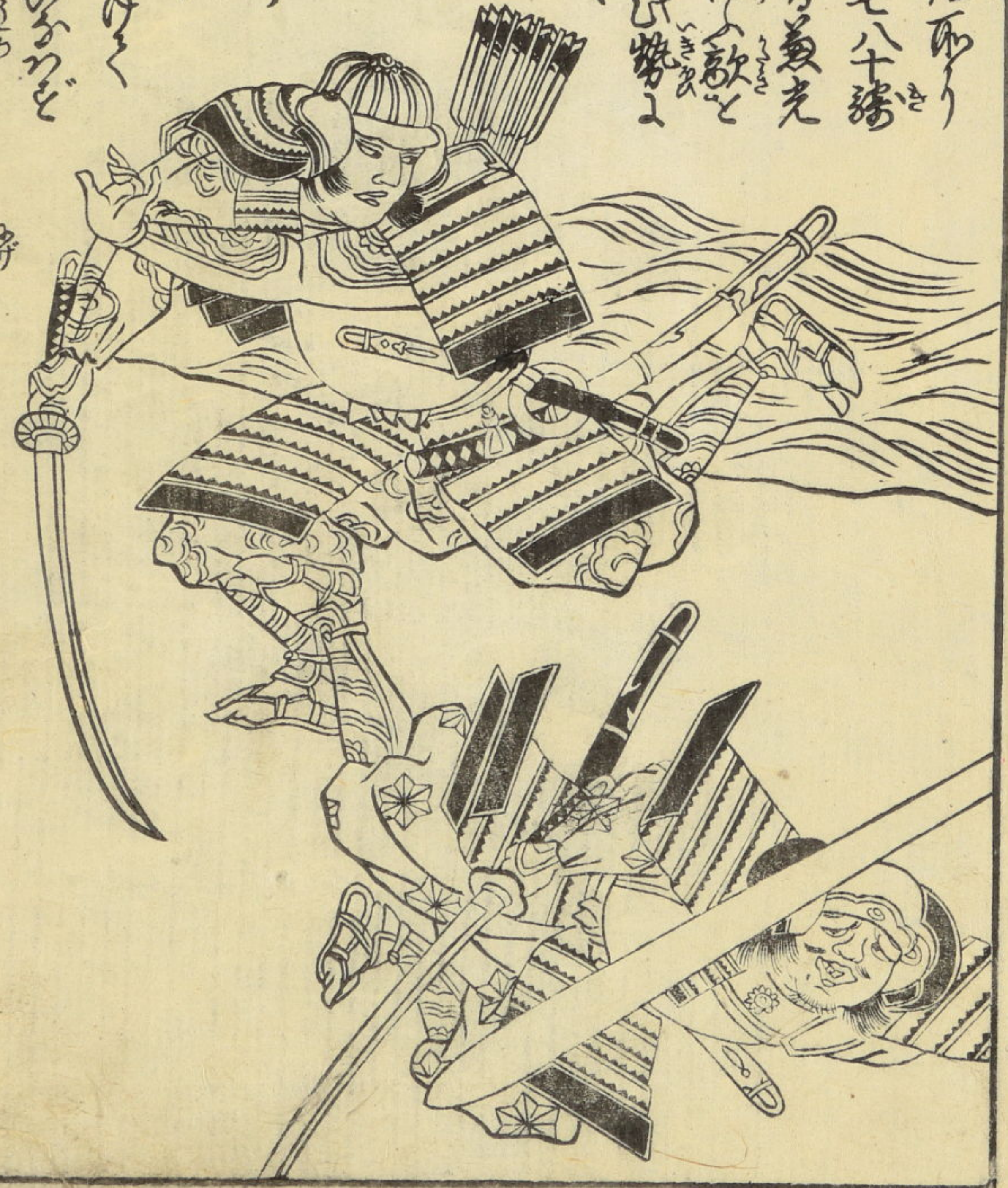


樋口次郎重光
 本曾義仲の家
 中のそんなり
 義経と宇治の合
 戦の時大なる
 一か依り木梶原
 光俊は後ふに死
 後しけきつて
 大軍河をまわて
 戦ひしに敗れしに
 後軍に及びま念
 ぐもつた歎とら



ころんとゆるり
 梶原素時七千騎
 めて馳きける義光
 械あつとや向ふ歎と
 おだつとをせけし
 おきて馬方

ころんとゆるり
 ねると義光の
 素時が目をひく
 おてくまのめをど
 とや思ひらん後とらんぞて



今井兼平

木曾義仲の家

氏室全のまゝ也

勢田のひんげ

をりしう治

の軍破破

攻入と園より

らてし

あだち上方

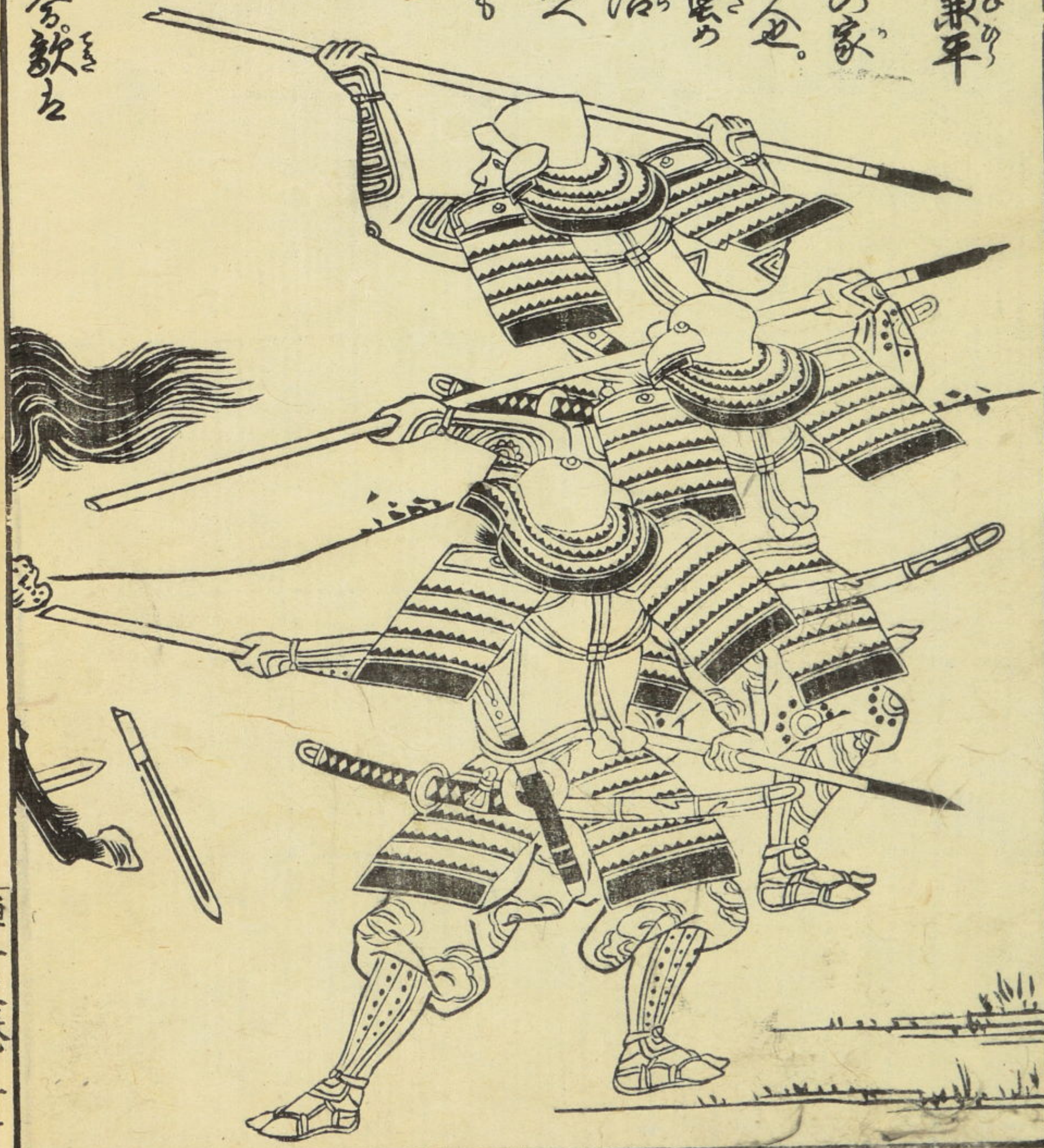
たあて平

かき金

ありし

兼平おて合

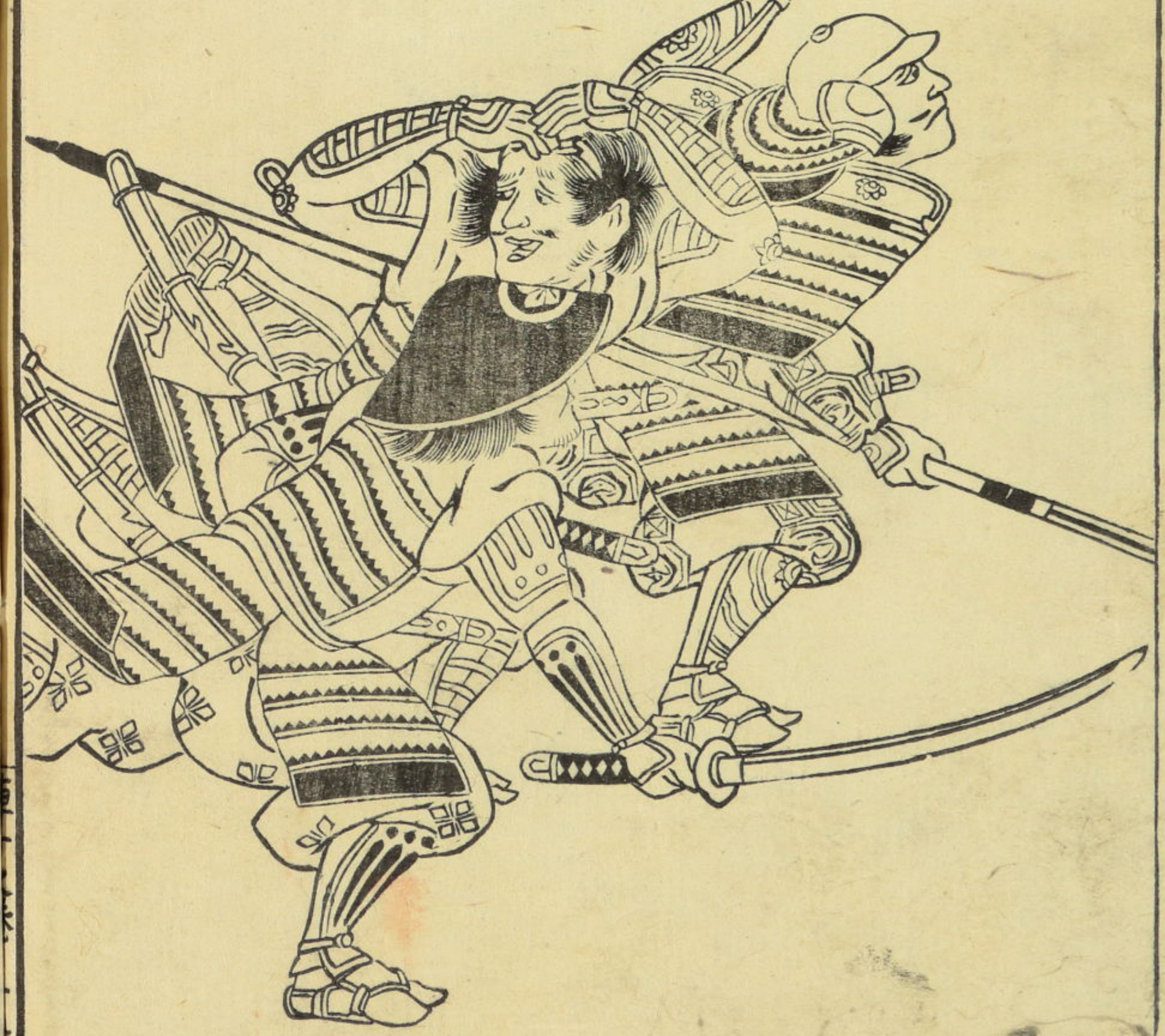
敵と



多勢の敵を打ち
ついでに
と破れぬ
かきさうやう
敵のちり



伊達六郎
 宇治の合戦みづから
 敵軍に及びて大勢
 振るふ。大勢
 の中へおこる。あま
 歌風うちとりぬ。本
 意をひきとる。あま
 敵軍とおこる。あま
 もあつる者か。あま
 彼とうちか。あま
 一方あつる。あま
 かれへ勝負へあつる



ざつとける





源義朝 源信賴
 待賢門の軍勝利して義朝
 八郎の妻系と成りし時小幡を
 伝ね追討せしを捉へてある
 ぞ。妾忠けしめられざる
 の腹痛瓜義朝後ふ
 とらひて面つゝかた
 事かのみひと
 いまにけり
 戦中伝ねの義



源頼朝義経
 頼朝浮雲が系にたじろ
 義経は其後よりふ千路
 ともふて奥原よりを
 事りたりとて常中に入
 対面



らまゝに頼朝義経
 おのめかゝるゝとて
 対面

畫圖

洛西雙丘麓

下河邊拾水子



洛陽彫工

石原半兵衛



洛陽彫工

丹羽庄兵衛



元治二
年春之改

大坂
新橋
河
原
半
兵
衛
改

度

丁

度

年

中川派市



五
開
山
中
卷
五